

事業結果概要

研究代表者：島田真理恵

(公益社団法人日本助産師会副会長、上智大学総合人間科学部看護学科)

<事業概要>

より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究

<事業目的>

産後ケアについては、市町村の産後ケア事業が各地で実施され、各地域、施設で様々な取り組みが行われている。本研究の目的は、日本における産後ケアと産後ケア事業の実態から、利用者にとって、効果的な産後ケア産後ケア事業を実施するための課題を明らかにし、今後のあり方を提言する。

<事業概要>

以下 5 つの調査を実施した。

研究1: 国内外の文献レビュー

研究2: 全国の有床助産所と産後ケアを実施していると公表している病院・診療所等を対象とした質問紙調査

研究3: 有床助産所・病院・診療所等で行っている産後ケアならびに産後ケア事業に係る実地調査、研究

研究4: 有床助産所ならびに病院・診療所に産後ケア事業を委託している市町村担当者への聞き取り調査

研究5: 有床助産所ならびに病院・診療所で産後ケアを受けた利用者に対する聞き取り調査

研究2～5については、公益社団法人日本助産師会倫理審査委員会（2015. 1～2015. 4）の承認を受けたのち、調査を実施した。

今後の在り方を検討するにあたり、本調査結果に加え、外部有識者からの意見を得た。

<事業実施結果>

産後ケア実施施設の 9 割が宿泊型ケアを実施し、利用者の利用動機は、支援者の不足、育児にまつわる不安等であった。施設が提供する産後ケアの内容は、授乳支援、児の状況に応じた育児支援、母親の身体的ケア等であった。利用者の満足度は高かった。ケア

提供者は助産師であるが、妊産婦の状況によっては多職種によるチームで対応する必要性が示唆された。

<事業実施効果>

産後ケアの定義づけがされた。

今後の施策として・産後ケアガイドラインの作成、・ケア提供者の教育プログラムの作成とケア提供者の養成が望まれる。

分担研究担者

安達 久美子（首都大学東京人間科学研究科看護科学域 教授）

市川 香織（文京学院大学保健医療技術学部看護学科 准教授）

稲田 千晴（上智大学総合人間科学部看護学科 助手）

葛西 圭子（公益社団法人 日本助産師会 専務理事）

國分 真佐代（鈴鹿医療科学大学 教授）

相良 有紀（上智大学総合人間科学部看護学科 助手）

佐藤 香（首都大学東京人間科学研究科看護科学域 助教）

服部 律子（椙山女学園大学 教授）

研究協力者（研究全般に関する助言）

岡本 喜代子（公益社団法人 日本助産師会 会長）

岡本 登美子（ウバウパハウス岡本助産院 院長）

山本 詩子（山本助産院 院長）

研究結果に関する評価委員（今後の産後ケア事業の在り方に関する助言）

木下 勝之（公益社団法人 日本産婦人科医会 会長）

関沢 明彦（昭和大学産婦人科 教授）